

プログラムデザイン

はじめに

- 1 学校における自然学校のさらなる充実のための取組
- 2 自然学校プログラムデザインについて
- 3 プログラムデザインを有効に機能させるための資料集

はじめに

自然学校のプログラムを構成する上での現状の問題点は、ねらいの曖昧さ、指導方法・指導形態の画一性にあると思われる。

プログラムの構成を手がけていく場合、目的、指導方法・指導形態、指導種類・評価方法等全体を考え進めるべきである。

しかし、現状の自然学校では、子どもたちが喜ばばよいとか、単に体験させることが大切であるなど、どのような種類の活動ができるのかという点ばかりが先行し、何のために、どのような方法でというねらいに迫る部分が軽視されがちである。

したがって、プログラムが各活動の羅列、寄せ集めになってしまっていると同時に、自然学校の実践の場においても、時間内に淡々と活動をこなすことに力が注がれている傾向にある。

プログラム全体には大きなねらいがあり、それに基づき、学年全体・各学級の活動あるいはグループ・個々の活動といったそれぞれのねらいがあるべきである。そのねらいを達成するにあたり、最も適した指導方法・指導形態、活動内容等を考えることが必要である。ねらいや指導方法等が明確にされていてこそ振り返りや評価が実施できる。

また、事前準備や事前打合せ、事後の発展的・系統的な学習も重要であり、今後、それらも視野に入れたプログラムの構成が求められる。

1 学校における自然学校のさらなる充実のための取組

学校においては、地域との連携と適切な役割分担を図りながら、自然学校を学校の教育課程に適切に位置づけて実施する必要がある。その際、次のことに配慮することが重要であると考えられる。

1) 学校としての体制づくり

活動の窓口となる担当を明確にし、校長の指導の下に全教職員が協力して校内推進体制を整備する。

2) 教職員の意識・能力の向上

教職員一人一人が自然学校の意義や理念を正しく理解し、これらの活動に係る指導の力量を高めていくことが不可欠である。

教職員一人一人が自信を持って指導に当たることができるように、校内の研修はもとより、教育委員会等が実施する研修等に積極的に参加する。

3) 活動実施上の配慮

◇教育活動全体を通じた自然学校の充実

発達段階に応じた適切な活動の機会の提供が行われるよう、自校の教育目標や地域の実情を踏まえ、学校として活動のねらいを明確にする。

◇興味・関心を引き出し、自発性を高める工夫

発達段階や活動の内容に応じ、活動の企画段階から児童を参画させるとともに、児童が選択できるよう多様な活動(選択活動)を用意することが望まれる。

◇事前指導・事後指導

活動前に、自然学校を行うねらいや意義を児童に十分理解させ、児童がこれから取り組む活動についてあらかじめ調べたり、準備をしたりすることを通じ、意欲を持って活動できるようにする。

活動後は、感じたり気づいたことを振り返り、まとめたり発表したりする。

◇活動の円滑な実施のための配慮

活動を効果的かつ安全に行うために必要な知識・技能等の習得のための指導者の事前研修が必要である。

受け入れ先との綿密な連絡調整など企画段階での配慮、活動を実施する際の留意点などについての十分な調整、児童への周知、活動を支援する指導補助員・帯同救急員等との十分な打合せや活動を振り返り次の活動につなぐ手立ての工夫等が重要である。

◇活動の適切な評価

自然学校の評価については、点数化した評価ではなく、児童の良い面を積極的に評価し、どのような資質や能力が育っているのかという観点を重視して適切に行う必要があり、振り返りが大切である。

その際、児童の感想・意見、保護者の感想・意見、受け入れ先の感想・意見等を把握するなど適切な評価を行うための工夫をするとともに、その結果を次年度以降のプログラムの内容や活動の在り方に反映させる。

◇事故発生時の備え（リスクマネジメント）

緊急時対応マニュアルを作成するとともに、必要に応じた地域警察・消防署等への事前の連絡、医療機関への事前連絡、緊急時の連絡先リストの作成などの準備、保険の利用を行うことが必要である。

そこで、上記のことをふまえ、以下充実した自然学校とするため、プログラムの在り方に視点をあて、プログラムデザインの手法について述べる。

2 自然学校プログラムデザインについて

プログラムとは、一つ一つのアクティビティ^{注1)}を組み合わせ、目的を持った一連の流れのある全体の活動をいう。

そして、プログラムデザインは、自然学校の目的(ねらい)を実現するためのプログラムづくりであり、「思い」「ねらい」「テーマ」をアクティビティ(活動)という目に見える「動き」「形」を用いて構成するものである。

プログラムをデザインする中で一番大切なことは、何を感じて何を考えてほしいかというテーマであり、留意することは、参加者の気持ちに配慮した流れである。効果の高いと思われるアクティビティの羅列だけでは、よいプログラムにはならない。

プログラムデザインとは、個々のアクティビティをどのようにして相手の心の動き・要求に合わせて組み合わせるかという技術のことである。

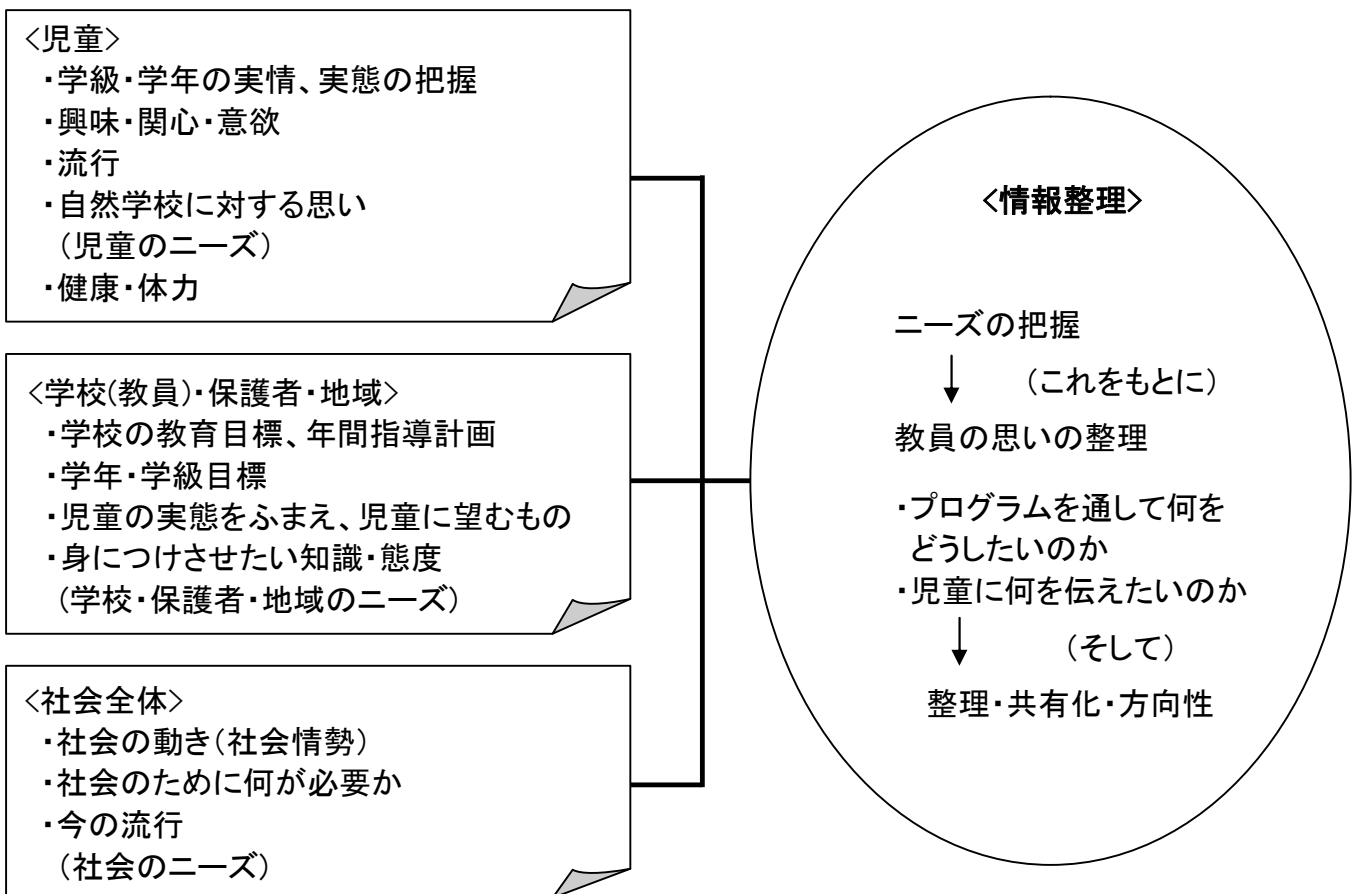
さらには、行ったアクティビティの経験を次のアクティビティにいかす工夫が望まれる。一つ一つのアクティビティにつながり(流れ)を持たせるプログラムの組み立てを考えることが重要である。

自然学校プログラムデザイン

(1) コンセプト(ねらい)の明確化

(デザインの核)

「プログラムを構成する上でのコンセプト^{注2)}」を明確にする。

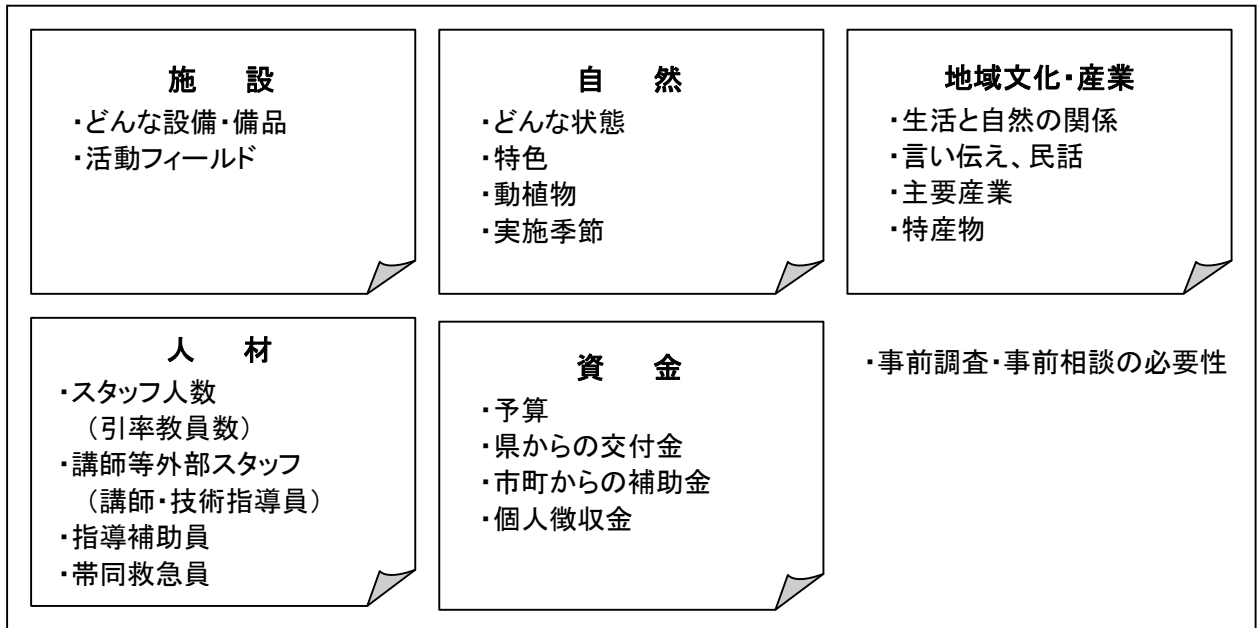


注1) アクティビティ 自然体験などの活動の一単位のこと。プログラムの部品のようなもの。

注2) コンセプト 概念・考え方。自然学校を実施する上での「ねらい」。

(2) 資源の整理

デザインをしようと思っているフィールドなどの資源^{注3)}について整理する必要がある。



(3) 自然学校プログラムデザインの留意点

ア プログラムの「ねらい」の明確化

イ 5年生児童に何を伝えたいのかを整理し、方向性を決め、目的の共有化を図る

ウ 実施する内容とねらいの一致を図る

エ 「何ができるか」ではなく「何のために行うのか」に留意する

オ プログラム実施手順、流れ(4泊5日以上の流れ)

つかみ(導入)～本体(展開)～振り返り・分かち合い(まとめ)

カ 欲張らず絞り込む(ゆとりあるプログラム)

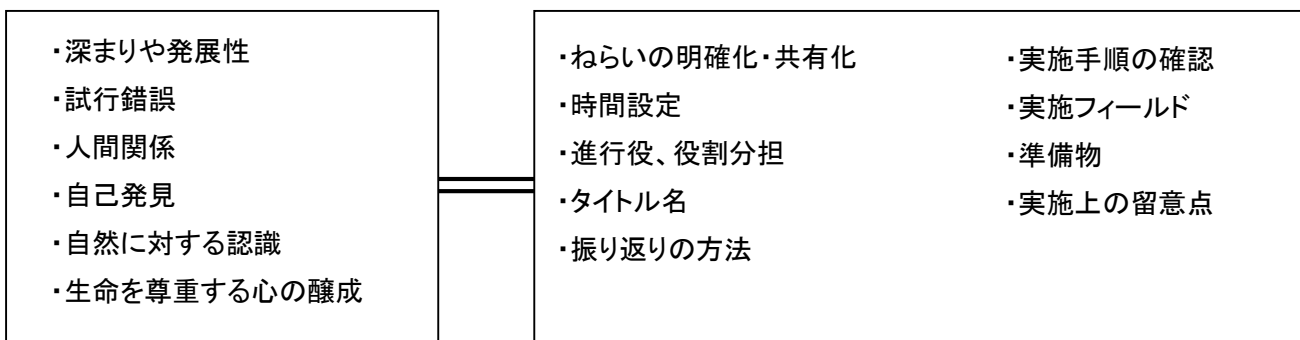
キ 児童の期待するものをくみ取りプログラムを組み立てることも大切(児童の参画)

ク フィールドポテンシャル^{注4)}の調査

ケ 児童への効果的な情報開示 下見時のVTR・デジカメ写真・ガイダンスVTR・6年生の話等

(4) 自然学校プログラムを構成する上でのアクティビティデザイン^{注5)}の留意点

・【アクティビティで求められる要素】

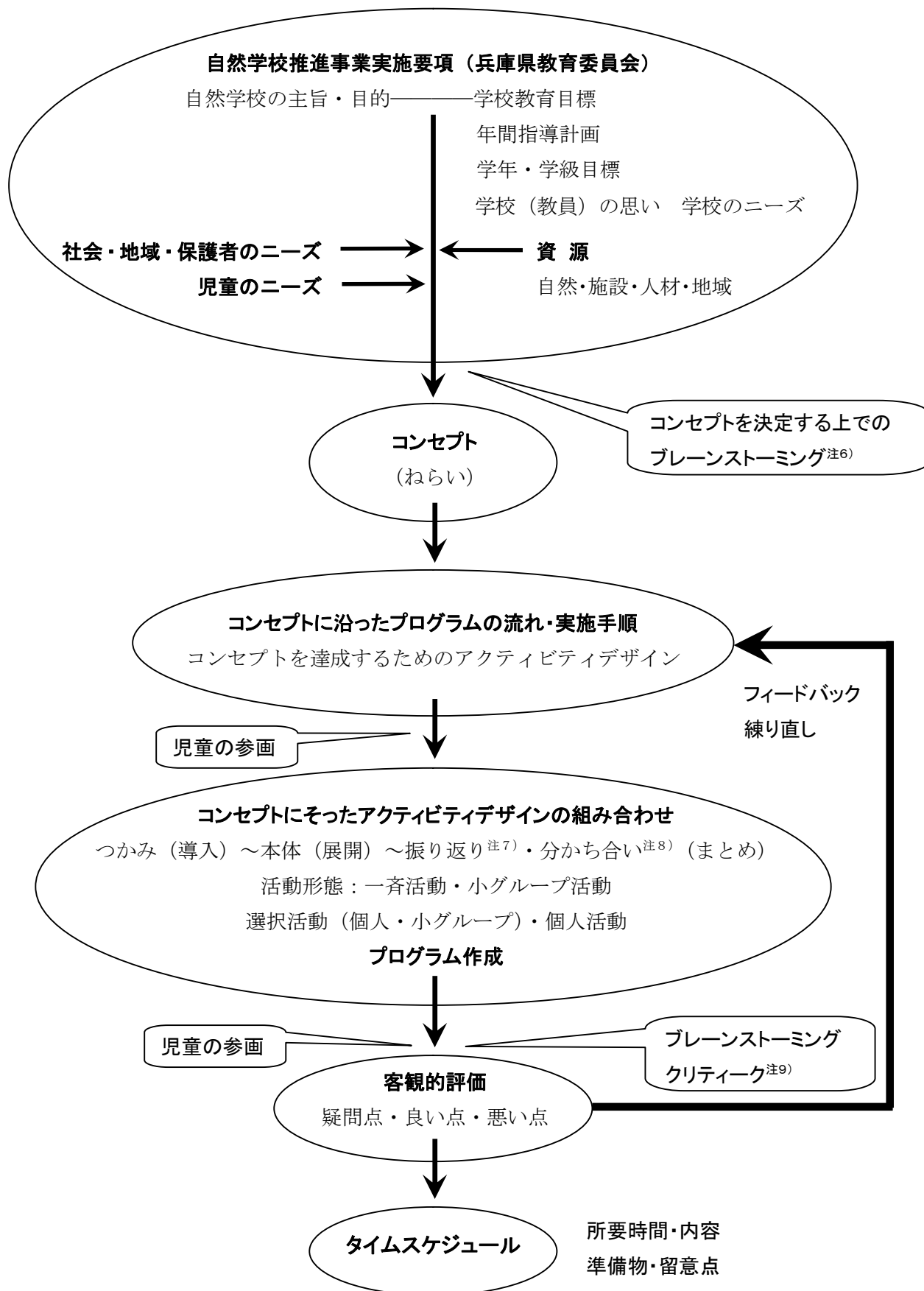


注3)資源 自然学校を運営していく上での諸条件(施設・環境・人材資金等)。

注4)フィールドポテンシャル 活動場所の持つ潜在的能力及び可能性。

注5)アクティビティデザイン アクティビティ(活動)を構成し作ること。

(5) プログラムデザインの構図



注6)ブレインストーミング 他の人の発言を批判することなく全員が自由に発言を行い、独創的なアイデアを引き出す話し合いの一手法。

注7)振り返り 振り返りシートを使用し、自分が行った活動を振り返ってみること。

注8)分かち合い 小グループにて個人の振り返りをもとに、ブレインストーミングを行う。

注9)クリティーク 「評価」、「批判」を受けること。

(6) 実施要綱

実施要綱作成のためには、以下の手順が必要である。

作成日:平成〇〇年〇〇月〇〇日

作成者:〇〇小学校 〇〇 〇〇

○ 6W5H

| | | |
|---|---|--|
| <p><u>What</u> (名称・概要)</p> <p>平成〇〇年度 〇〇小学校自然学校</p> | <p><u>Why</u> (ねらい)</p> <p>豊かな自然の中で、人や自然、地域社会とふれあい、様々な体験を通して「生きる力」を育む。</p> | <p><u>When</u> (いつ)</p> <p>平成〇〇年 〇〇月〇〇日 (月) ～〇〇月〇〇日 (金) (4泊5日)</p> |
| <p><u>Who</u> (事業の仕組み)</p> <p>〇〇小学校5年生の年間指導計画に位置づけ実施。「生きる力を育む体験活動」等、県教育委員会の作成した資料等を参考。学校では味わえない感動体験。</p> | <p>実施要綱・6W5H</p> <p>コンセプト</p> <p>お互いに協力し、最後までやりとげる力を培う。</p> <p>(協力) (達成感)</p> | <p><u>Where</u> (どこで)</p> <p>県立南但馬自然学校 兵庫県朝来市山東町 迫間字原189</p> |
| <p><u>Whom</u> (対象者)</p> <p>〇〇小学校5年生 〇クラス 〇〇名</p> | <p><u>How</u> (手法、手段)</p> <p>山を主体とした自然体験活動を実施。 一斉プログラム 選択プログラム 児童参画プログラム</p> | <p><u>How much</u> (予算・経費)</p> <p>県からの交付金 市町からの補助金 個人実費徴収 〇〇〇〇円×人数分 (宿泊費・食費等)</p> |

(7) プログラムデザインの手法をいかした取組における利用校担当者の振り返り

自然学校を実施するにあたり、南但馬自然学校と連絡を密にとり、プログラムを構成する上での留意点等指導・助言を受け進めていった。その指導・助言をもとに児童や学校(教員)・保護者のニーズを整理し、学校としてのコンセプトを明確にすることから取り組んだ。プログラムについては、児童の意見も取り入れながらコンセプトを中心に据えた活動、また4泊5日に流れのある活動を試行錯誤しながら組み立てた。活動エリアとなる場所については、活動時間が確保できる場所であるか、安全面についてはどうか、児童のニーズが十分満たされる場所であるかどうか等、あらゆることを想定しながら念入りに下見を行った。

下見については、プログラムを作る上で一度行い、そのプログラムの具体化に向けて再度南但馬自然学校の指導・助言を受けた際、もう一度活動エリアとなる場所の二度目の下見を行った。この指導・助言と下見をもとにもう一度プログラムを見直し、活動の具体化を進めていった。

自然学校の核となるコンセプトを決定し、プログラムの具体化を図る際にブレインストーミングを行った。特にプログラムの活動の具体化を図る際は、幾度となくフィードバックを繰り返した。

このブレインストーミングを数多く行ったことで、指導者の自然学校に対する姿勢はもちろんのこと、コンセプト、活動の流れの周知徹底、指導の在り方の統一等、指導者(教員等)間の自然学校に対する共通理解が図れた。

児童にも、自然学校のプログラムを構成する際、意見を述べることにより参画しているのだという意識が芽生え、自然学校を実施していく上での意欲の向上につながった。また、自分たちの自然学校をつくり上げるという意識の高揚にもつながったと思われる。

コンセプトを明確にし、流れあるプログラムを構成したことにより、指導者(教員、指導補助員、帯同救急員)、児童、双方が自然学校のねらいを明確に捉えることができ、一日一日充実した活動ができた。また、児童の活動の振り返りも次の活動にいかすことができ、グループ単位での活動ではあったが、その中で一人一人が成長する過程を目にするごとくできた。

評価面においても、コンセプトを明確にすることにより視点を持った評価ができ、指導者間の共通理解も図れたように思われる。

今回の自然学校を実施していく上で、プログラムを構成する一手法を学ぶとともに、プログラムを構成する上での過程がいかに大切であるかを痛感した。

3 プログラムデザインを有効に機能させるための資料集

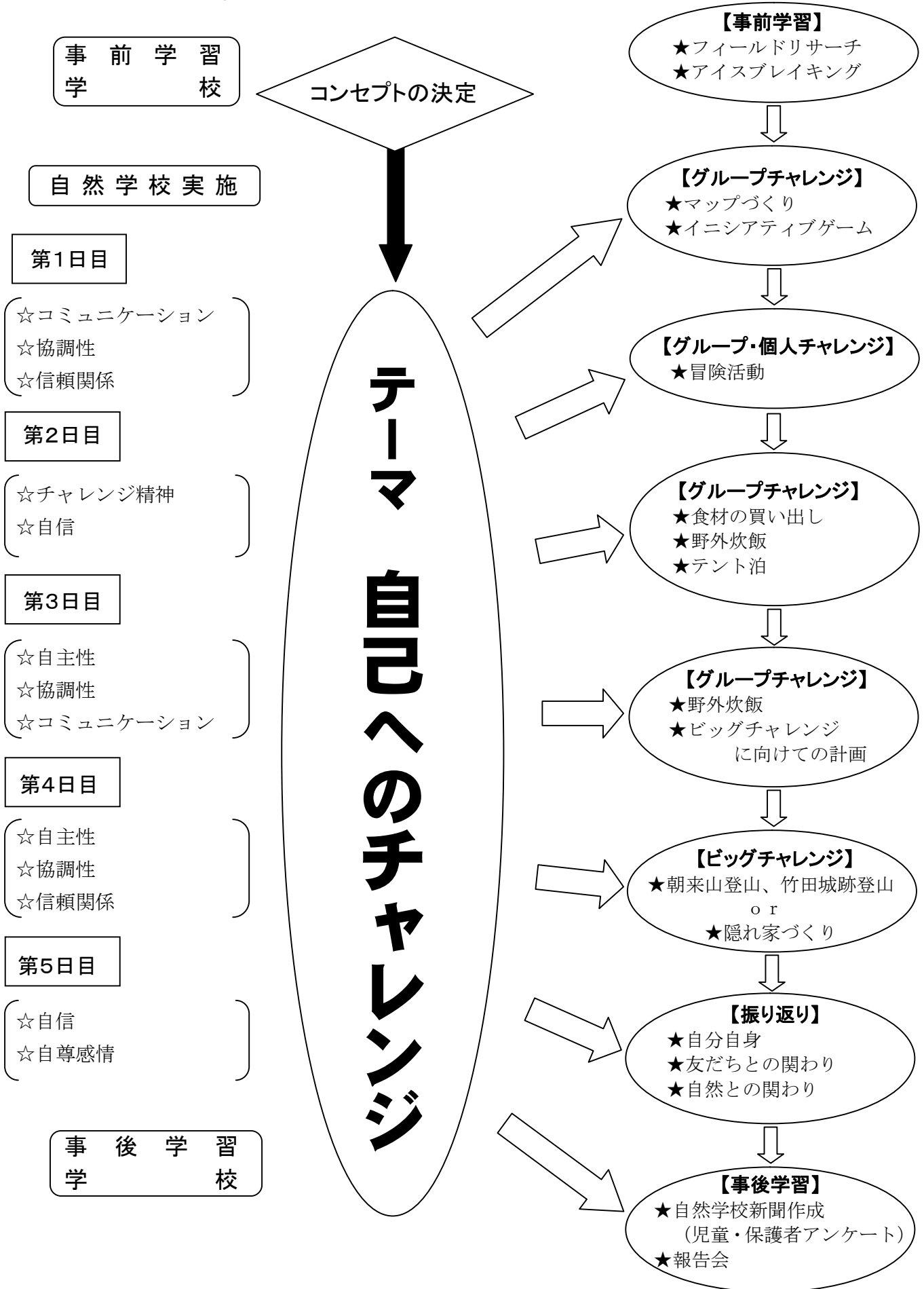
| |
|----|
| 資料 |
|----|

- (1) 自然学校におけるコンセプトとアクティビティ(例)
- (2) コンセプトにそったアクティビティデザイン(例)
- (3) チェックシート
 - ◇ プログラムデザインチェックシート
 - ◇ 自然学校運営チェックシート
- (4) 振り返りシート
 - ◇ 活動振り返りシート
- (5) プログラムデザインにいかす事前アンケート
 - ◇ 児童編
 - ◇ 保護者編
 - ◇ 教員編
- (6) 自然学校の振り返りや評価にいかす事後アンケート
 - ◇ 児童編
 - ◇ 保護者編
 - ◇ 教員編
 - ◇ 指導補助員編
 - ◇ 技術指導員・講師編

(1) 自然学校におけるコンセプトとアクティビティ(例)

| | | |
|--|--|--|
| <p>【協調性を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 協力 ☆ 団結 ☆ チームワーク ☆ 相互理解 ☆ 共感 ★ 野外炊飯 ★ 隠れ家づくり ★ 漕艇体験 ★ オリエンテーリング ★ 自然発見！ウォーク | <p>【信頼関係づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 共感 ☆ 思いやり ☆ 協力 ☆ 団結 ☆ 葛藤 ★ 冒険活動 ★ 野外炊飯 ★ テント生活 ★ 隠れ家づくり ★ 木(竹)伐採 | <p>【コミュニケーション能力を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 思いやり ☆ 相互理解 ☆ 表現力 ☆ 聞く ★ 冒険活動 ★ イニシアティブゲーム ★ ウォークラリー ★ マップづくり |
| <p>【チャレンジ精神の高揚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 決断力 ☆ 自己との対峙 ☆ 達成感 ☆ 信頼 ★ 朝来山登山 ★ 冒険活動 ★ ソロテント生活 ★ カヌー ★ サイクリング | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>コンセプト</p> </div> <p style="font-size: 2em; margin: 10px 0;">と</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>アクティビティ</p> </div> | <p>【想像力を豊かにする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 感性を磨く ☆ 表現力 ☆ 自然への関心 ★ 自然観察 ★ 自然物クラフト ★ 隠れ家づくり ★ 草木染め |
| <p>【自信をつける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 成就感 ☆ 達成感 ☆ 成功体験 ☆ 自己との対峙 ★ 朝来山登山 ★ 竹田城跡登山 ★ 冒険活動 ★ ソロテント生活 ★ 火おこし体験 | <p>【自己肯定感を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 充実感 ☆ 成功体験 ☆ 共感 ☆ 自己との対峙 ★ 冒険活動 ★ 朝来山登山 ★ 竹田城跡登山 ★ イニシアティブゲーム ★ カウンシルファイヤー | <p>【自主性を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 積極性 ☆ 問題解決能力 ☆ 適応行動 ☆ 相互理解 ★ テント生活 ★ 野外炊飯 ★ 隠れ家づくり ★ イニシアティブゲーム |

(2)コンセプトにそったアクティビティデザイン(例)



(3) チェックシート

プログラムデザインチェックシート

- 児童をどのように把握していますか？
- 教員の思い、学校のニーズを要約されていますか？
- 保護者・児童のニーズを把握していますか？
- 実施場所は？実施場所の下見・調査、確認はできていますか？
- この自然学校で行うプログラムのねらいは何ですか？
- ねらいに近づくアクティビティ(活動)となっていますか？
- プログラムにゆとりや流れ(ストーリー性)がありますか？
- 「振り返り」や「分かち合い」の場面を確保していますか？
- プログラム実施手順の確認はできていますか？
- プログラム実施手順がスタッフ・児童に伝わりますか？
- プログラムの進行役は誰ですか？
- プログラム実施時の役割分担は決まっていますか？
- 指導補助員の確保、事前打合せはできていますか？
- 必要な道具・準備物は大丈夫ですか？
- 必要なワークシート等の用意はできていますか？
- 自然学校の最初の導入は大丈夫ですか？まとめの仕方は？
- 救急体制(緊急対応マニュアル等)の確立とスタッフへの周知徹底は？
- 評価方法は？
- 事前説明会の資料作成、会場設営、役割分担は？
- 交通機関との交渉、連絡、確認は？
- 帯同救急員の確保、事前打合せはできていますか？

自然学校運営チェックシート

◇ 指導補助員の雇用

- 1 指導補助員の雇用計画を立てましたか？
- 2 雇用契約書またはそれに代わるものを作成しましたか？
- 3 指導補助員に対して自然学校の概要、目的、内容、日程などを説明しましたか？
- 4 雇用前に指導補助員のもつ技能、資質についてチェックをしましたか？
(採用基準を明確にしていますか？)
- 5 事前に指導補助員の健康チェック(アレルギーを含む)をしましたか？

◇ 帯同救急員の雇用

- 1 帯同救急員の雇用計画を立てましたか？
- 2 雇用契約書またはそれに代わるものを作成しましたか？
- 3 帯同救急員に対して自然学校の概要、目的、内容、日程などを説明しましたか？
- 4 緊急体制について説明しましたか？
- 5 雇用前に帯同救急員のもつ技能、資質についてチェックをしましたか？
(採用基準を明確にしていますか？)
- 6 事前に帯同救急員の健康チェック(アレルギーを含む)をしましたか？

◇ 児童把握

- 1 性格や好み、心の状態(心理状態)についての把握
- 2 自然体験度についての把握
- 3 交友関係についての把握
- 4 現在及び過去の疾病の把握
- 5 アレルギーについての把握
- 6 体温、睡眠、便通など体調の把握
- 7 児童一人一人の自然学校に対する目的・目標の把握
- 8 児童一人一人の興味・関心・意欲のある活動の把握(児童のニーズの把握)

◇ 評価

○ 児童に関すること

- 1 児童の反応は豊かであったか。
- 2 児童に対し、ゆとりある適切なプログラムであったか。
- 3 目的・目標に近づくプログラムであったか。
- 4 児童の健康管理・健康状態を把握できていたか。
- 5 児童に対し安全教育ができていたか。
- 6 各活動の振り返りや分かち合いを実施し、次の活動に活かしたか。
- 7 一人一人の児童はいかされていたか。
- 8 児童同士の信頼関係が築けたか。
- 9 児童一人一人が新しい自分を発見できたか。
- 10 児童は自然にどっぷりと浸り、楽しむことができたか。
- 11 責任感・満足感・達成感等、児童に味わわせることができたか。
- 12 自然学校の目的・目標、個々の目的・目標に対しどの程度達成できたか、この自然学校でどのような力が培われたのか、アンケート等で個々の思いを把握することができたか。

○ スタッフ(教員・指導補助員・帯同救急員等)に関すること

- 1 教員間の自然学校に対する共通理解がなされていたか。
- 2 スタッフの確保は適正にできたか。
- 3 スタッフの配置、役割分担は適切であったか。
- 4 スタッフ間の信頼関係は築けたか。
- 5 スタッフにプログラムのねらいを明確に伝え、理解させることができたか。
- 6 スタッフに対し明確な指示ができたか。
- 7 ミーティング時に反省事項、打合せ事項、引き継ぎ事項等を記録し、児童に適切な指導ができるよう周知徹底がなされたか。
- 8 プログラムに対する安全管理について適切な指示がなされていたか。
- 9 スタッフの健康管理はできていたか。
- 10 児童の活動の振り返り、分かち合いの際のファシリテーター^{注10)}としての役目が果た

せたか。

11 児童一人一人の行動観察ができていたか。

○ 保護者に関すること

1 プログラム(活動)の趣旨を理解してもらうことができたか。

2 活動内容について明確に説明し、伝えることができたか。

3 安全管理に対する説明が明確になされたか。

4 児童の健康状況等の情報は収集できたか。

5 児童の事故、けが等に対し発生状況及び対応処置等、保護者に的確な説明・報告がなされたか。

6 負傷者等への誠意ある対応がなされたか。

7 自然学校終了後、自然学校で培った力等、児童の変化について保護者に対しアンケート等で情報を得る手立てがなされたか。

(4) 振り返りシート

活動振り返りシート

日付: 月 日()

名前: _____

○私がうれしかったことは、

○私がおどろいたことは、

○私が気づいたことは、

○私ががっかりしたことは、

○私が学んだことは、

○私にとって、必要だと思ったことは、

○その他に考えたこと、書いておきたいことは、

◇教員編（事前アンケート）

※自然学校を子どもたちにとってより意義のあるものにするため、目標の設定及び活動の在り方など考える上で参考にしたいを考えます。
アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

- 1 子どもたち（5年生）の実態をどのように把握されていますか？
- 2 子どもたちは自然学校にどのようなことを期待していると思われますか？
- 3 保護者は自然学校にどのようなことを期待されていると思われますか？
- 4 今回の自然学校で子どもたちにどのような力をつけさせたいとお考えですか？
- 5 自然学校に期待することは何ですか？
- 6 自然学校を実施するにあたり、気がかりなことはありますか？

◇教員編（事後アンケート）

※自然学校を終え、自然学校の目標やプログラム計画、運営面等を振り返り、今回の自然学校の評価を行う上での参考にしたいと考えます。
アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

1 子どもたち（5年生）にどのような変化がありましたか？

（プラス面： _____）

（マイナス面： _____）

2 子どもたちの新たな一面を発見できましたか？

① できた ② できなかった

①できた と回答された方にお尋ねします。それはどんな面でしょうか？
具体的にお答えください。

[_____]

②できなかった と回答された方にお尋ねします。それはどんな要因でできなかったとお考えでしょうか？

[_____]

3 自然学校のねらいは達成できたと思えますか？

① 思う ② 少し思う ③ どちらともいえない ④ 思わない

④思わない と回答された方にお尋ねします。その要因はどこにあったとお考えですか？

[_____]

4 今回の自然学校での成果や良かったと思われることはどのようなことですか？

[_____]

5 今回の自然学校での反省点はどのようなことだとお考えですか？

[_____]

